

會 務

第 22 卷 第 9 號 昭和 11 年 9 月

役 員 會

第 8 回理事會 (昭 11. 7. 20)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，平山，萩原，藤井
沼田，宮長各理事

1. 天皇陛下に明治以後日本土木史を獻上することとし其手續を採ることとす。
2. 平山復二郎君地方転勤に伴ふ常議員補欠選挙の件を常議員會に諮ることとす。
3. 旅順工科大学内に土木工学科設置方を再度建議することとす。
4. 土木工學用語集の販賣に就きシビル社より願出の件は販賣条件を同社へ照會の上更に協議することとす。

5. 振興委員會第 2 部會提案の事項に關しては次回理事會に於て協議することとす。

6. 役員會及各種委員會の開催日を別表(省略)の通り決定せり。

7. 入退會の件

三浦宇三郎君を會員に，有田政次君外 25 名を准員に，石田敏則外 10 名を學生員に入會を承認し，越智治正君を准員より會員に，梅澤健夫君外 12 名を學生員より准員に転格を承認せり。

8. 其他の協議事項：日本電力會社石井頼一郎君が國際大堰堤會議へ出席せらるゝに付本會の代表を依頼すること。動力協會より申入れありたる大堰堤噴壺及講演會開催に就ては本會は賛意を表すること。工人俱樂部より申入れのシヤム國有鉄道運轉課長其他を招待し講演會開催の件は今秋工人俱樂部と聯合にて催すこと。アフガニスタンへ内務省より技師 2 人赴任するを以て出發前東亞連絡關係の招待會を催すこと。

第 4 回常議員會 (昭 11. 7. 20)

出席者： 井上會長，辰馬副會長，内川，小野，藤井
宮長，河口，菊池，關，沼田，萩原，平山
宮本，吉田各常議員，中川，眞田兩前會長

報告事項

1. 昭和 11. 7. 6 第 7 回理事會議事自第 1 項至第 9 項並に次の事項を報告せり。
2. 入退會報告(別表省略)
3. 役員會及各種委員會開催日(別表省略)

4. 旅順工科大学内に土木工学科設置方再建議の件。

決議事項

1. 基金運用及募集に關する委員會設置の件は理事會に一任することとせり。

2. 平山復二郎君地方転勤に依る常議員の補欠は定時改選まで選挙を行はざることとせり。

3. 理事平山復二郎君の補欠に就ては會長に一任することとせり。

以上の議事終了後小野常議員より退任平山復二郎君が總務部長としての盡力に對しその功績を頌へ謝意を表し度き旨を述べ，井上會長よりも同様の挨拶あり，役員一同之に賛意を表す，次で平山君の答詞ありたり。

總 務 部 記 事

第 4 回振興委員會第 2 部會 (昭 11. 7. 16)

出席者： 古川委員長，阿曾沼，内海，河西，金子，
兒玉，高橋，徳善，金森，木幡，稻葉，大
島，青木各委員，萩原經理部長，柴原書記
長，小野寺庶務主任

1. 土木図書館の設置計畫の件に就ては次の如く會長に提案することとす。

土木図書館及學會図書室の内容を充實改善するの件

(イ) 學會図書室の内容を充實すると共に學會に於て出版せる土木工學論文抄録の追加並に其所有図書館名を調査されし。

(ロ) 會員より前記論文に對する寫本の頒布を要求されたる場合は學會は適當の金額にて之に應じ得ることを學會の事業とせられたし。

(ハ) 既設図書館の土木に關する図書の内容充實に關し調査の上好意の勧告されし。

2. 災害防止に關する調査並に建議に關する件は擔當委員缺席に付次回委員會に於て更に協議することとす。

3. 土木工事取締規則に關する調査並に建議に就ては次回委員會に於て更に協議することとす。

4. 少壯會員を成る可く多く各種委員會の委員に依頼されし事を會長に提案することとす。

其他座談の協議事項：土木請負業者の經歷書を本會に於て調査の上作成すること。

第 5 回振興委員會第 3 部會 (昭 11-7-15)

出席者：太田尾委員長，野坂，奥田，須之内，瀬戸南保，原田，松井各委員，萩原理事，柴原書記長，小野寺庶務主任

萩原理事の挨拶及野坂委員より第 3 部提案の會誌改革に就ての會誌編輯委員會の意向を報告し議事に移る。

決議事項

1. 學會誌並に名簿より「工学士」なる名稱を削除することとし学位のみとすること。

協議事項

1. 成る可く多數の少壯有爲の會員をして學會内の諸事業を分掌せしむること。地方少壯會員にも可及的に事務の分擔を依頼すること。特種座談會を頻繁に催し出席を勧誘すること。各種有用なる「パンフレット」の編纂發行。單行本の發刊等を実施すること。

第 2 回土木技術者相互規約調査委員會 (昭 11-7-13)

出席者：青山委員長，鈴木，中野，竹股，後藤，齋藤各委員，平山總務部長，柴原書記長，小野寺庶務主任

米國に於て技術者相互間の徳義上の規約として米國機械學會首唱の下に米國土木學會其他が既に制定せる Code of ethics 及び其後米國土木學會が之を細則的な條文とした Code of practice を議題として意見の交換をなし次の如き申合をなす。

1. 規約の制定に當りては其の目的が土木技術者の品位を高め技術者の矜持と權威を保ち一方青年技術者の指導方針たらしむること。

2. 制定すべき規約の範圍は主として技術者としての行爲，又は職業上の行爲に關するものたること。

3. 上記米國に於ける技術者相互間の規約を參考として我國情に則した原案を次回迄に作成すること。

大堰堤を語る講演と映畫の會 (昭 11-7-30)

土木學會，日本動力協會，電氣協會，電氣俱樂部共同主催の下に電氣協會々館講堂に於て開催せり。來會者 200 餘名

講演：奥多摩小河内貯水池堰堤に就て

東京市水道局擴張課長 小野基樹君

映畫：ワシントン第 3 回世界動力會議並に第 2 回大堰堤會議は招く (3 卷) ボールダー堰堤の工事實況 (2 卷)

編輯部記事

第 1 回編輯幹事會 (昭 11-8-4)

出席者：鈴木，長田，野坂各幹事，關會誌編輯委員長，五十嵐編輯主任，中川囑託

1. 會誌に時報欄。新刊紹介欄新設に就きその配列順序を前者は彙報の後，後者は抄録の後と決定せり。

2. 土木學會パンフレット，土木年鑑，發行に關し打合せ次回に協議する事とせり。

3. 第 22 卷第 8 號所載論說報告其の他に對する謝禮を決定せり。

第 8 回會誌編輯委員會 (昭 11-8-4)

出席者：關委員長，伊藤，板倉，稻葉，大久保，榎部，鈴木，長田，野坂各委員，五十嵐編輯主任，中川囑託

1. 第 22 卷第 9 號に下記論文を追加承認せり。

抄 録：深地層調査用の新地質標本採取機(福西)，衝擊荷重を受ける熔接構造物の設計(糸川)，型枠取外しの際生ずる附加応力に就て(糸川)，方形ラーメンに於ける Ecksteifigkeit の研究(糸川)，木枕木に於ける螺釘の状態(古賀)，米國鐵道技術協會總會の記事(古賀)，シープスフートルローラーの磨耗(玉置)，Elk 市堰堤の決潰(玉置)，注入劑としての瀝青乳劑(吉藤)，杭基礎の電氣化学的固定法(傍島)，河口に於ける潮波の影響に就て(傍島)洪水防禦資料(藤森)，砂の中のアーチ作用(奥田教)，模型試験に於ける水流の相似律(本間)，

時 報：大堰堤國際委員會記事，都市計畫決定事項，新鴻鐵道局の新設，鐵道省下關改良事務所の新設，完成せる大分縣拜田橋，植松橋，千丈橋，鶴崎橋工事

新刊紹介：日本大堰堤彙帳，鐵道，鐵道工学，品川客車換車場に關する調書，流量表，鉄筋コンクリート設計法，鉄骨構造，

2. 第 22 卷第 10 號に下記原稿の登載を決定せり。

抄 録：海外に於ける道路=ニュース(福西)

特許紹介：

3. 第 22 卷第 11 號に下記原稿の登載を決定せり。

論說報告：伊東線宇佐美隧道北口の換氣設備に就て(會，工，石川九五，小竹秀雄)

4. 謝禮及各號への登載論文割當を編輯幹事會に於て決定する事とせり。

5. 會員の頁欄を新設する事とし具体案を編輯幹事會に一任せり。

6. 第 8 號論文の謝禮，經濟部長よりの廣告記事取

援に關する申出の件。工事寫眞、時報、彙報の記事蒐集に關する事項を報告せり。

法制部記事

第2回行政機構改正調査委員會（昭11-7-9）

出席者：八田委員長、三浦、鈴木、山下、古川、堀越、後藤、立花、兒玉、宮島、各委員、宮長法制部長、平山總務部長、柴原書記長、小野寺庶務主任

議事要項

八田委員長：土木行政機構改正の目標は次の2案を考ふる事を得。

(1) 土木公共省の設立、(2) 現在機構に於て強力なる横斷的聯絡機關を内閣に直屬せしめ行政の統制を計る。

第2案は便法なるも實行比較的容易なるを以て主として第1案を目標とし議事を進行することとしては如何と語り、各委員賛成。先づ現在機構に於ける土木行政分立の弊につき實狀を知るの要あり此點に關し前回申合による幹事の調製せる資料を基とし各委員に於て實狀の説明ありたしと希望す。

鈴木委員：土木行政分立の原因は土木行爲の結果の有する機能に重點を置きたるが爲めにして、港灣に於て見るに、航路標識は航海の安全より逕信省燈臺局に屬し陸上設備は内務省に於て所管せるも外國貿易に於ては關稅の關係上大藏省當管財局に於て工事を施行す。漁港は水産の機能より農林省水産局の所管なるも土木工事として内務省の施工せるものあり之の點兩省の關係は入り亂れ殊に中小港灣に於て然り、土木工事としては全く同種のものにして船舶は其の種を問はず自由に入出入し得るに拘はらず之を分割所管するは不都合あり。

陸上設備に於ても同様にして之を土木工事と見る時は之を一括施工するの經濟なるは論を俟たざる所なり。

次に治水につき見るに河川の改修及砂防は内務省の所管なるも農林省は亦森林治水事業、用排水幹線改良事業荒廢地復舊事業の如き治水事業と目せらるるものの施工に當り之等は農、山林行政上密接なる關係ありとの理由に基き農務局、山林局の所管に屬す。

水力に關しては内務省は河川に關係せる行政は河川を一体として考へ、逕信省は發電機能の點より考へ、農林省は漁道及流木の見地より監督せり。

宮島委員：同一の事業を内務農林に於て調査するは地方廳としては困ることあり、農林内務の豫算の分捕となる。

宮長部長：港灣に於ては現在各省の聯絡ありや。

鈴木委員：港灣には以前より港灣調査會あり、現在土木會議港灣會あり各省より議員を出し重要な港灣計畫につき其連絡を保つ、但し土木會議は諮問機關なるを以て力を缺く。

平山總務部長：假りに港灣行政を統一するも、水産に關しては農林、外國關係は大藏に關係あるを以て、統一せるものと各省との關係は依然存在す、統一するとせば何を統一するや。

鈴木委員：港灣工事の行政の統一なり。港灣工事は同一豫算を以て施工し竣工の上は水産は農林省に、鉄道は鐵道省にと各省に移管す。理想としては土木省を置き公共的施設の建設を一つに纏めることとなる。但し除外例は存すべし、之の場合と雖も各省との連絡機關の必要あるは勿論なり。

三浦委員：機能による統一は不可能なり、土木工事の施工を統一する土木施工省の實現は可能性あるものと考へらる。

道路に關する行政の現狀を説明す。道路法による道路は内務省の所管なるも、林道（近來町村道と同一のものあり）は農林省に屬す然も其築造に關しては何等道路法の制限を受けず自動車専用道路は内務省の所管する所にして鐵道省は運輸關係より之に關係せり軌道も同様なり。

平山總務部長：土木省に統一したりとして、府市民間の事業の監督並に免許は如何。

鈴木委員：土木省に屬せしめ補助の豫算も土木省豫算に入る。

古川委員：工事の統一を主体として土木省を設置する事も必要ならんも築造せられたるものの運用は更に重要なり、即ち機能に重點を置くの要あるものと考ふ。

平山總務部長：運用と工事を分離し得るや。

鈴木委員：機能により土木工事を分類することは不可能なり、土木工作物は單一なる機能に屬せず多目的なり。若し土木工作物が單一なる目的を有する時は其施工は特殊の機能に屬せしむるも可ならんも其他は土木省に屬せしむ。

平山總務部長：土木省に屬せしむる範圍は結局現狀に於て甚しく不便を感ぜる事實を探究する時は自ら定まるべし。

宮長部長（委員長代理）：現状の不都合を討究して
 応急策につき議事を進むることとし度し。先づ港灣に
 對する応急策如何。

宮島委員：大漁港以外の小漁港を内務省にて見る
 は地方は困る之の點を廢すことにし度し。

鈴木委員：實際問題として困難なり。応急對策と
 しては各港毎に地方港灣委員會を設け中央に中央委員
 會を置き各機能を代表せしめ、港灣修築事業につき連
 絡を密にし各省に分屬せる工事の統制を計る事とせば
 如何。（賛成者多し）

平山總務部長：鉄道、道路の交叉は交通上重要な
 問題にして之の點に關し交通協議會を設置するの要あ
 り。（目下内務、鉄道に於て打合せあり）

宮長部長（委員長代理）：本日は之の程度に止めた
 し。本日応急策として大体意見の一致を見たる事項左
 の如し。

1. 港灣修築事業につき各省に分屬せるものの連絡
 統制につきましては各港灣に地方港灣委員會を置き計畫上
 の諮問機關とし中央委員會を置き各省間の打合を密に
 すること。
2. 治水事業に關しては現下、内務農林に分屬せる
 ものは其性質同一なるものにつき之を統一すること。
3. 水力に關しては次回、遞信、内務兩省の當事者
 の出席を求め意見を聴取すること。
4. 林道は其幅員大なるものは道路法に準ぜしむる
 こと。
5. 道路、鉄道の交叉軌道の監督に關しては内務鉄
 道兩省の協議會を設くること。
6. 都市計畫事業は現状の都市計畫委員會による。

土木學會關西支部記事

○昭和 11 年 5 月 29 日午後 5 時より中央電氣俱
 樂部に於て第 4 回役員會を開き常議員松田健作君外 8

名出席下記事項を協議せり。

- (1) 第 7 回土木工学研究會の件 (2) 支部規定改正
 の件 (3) 5 月晚餐會の件 (4) 9 月通俗講演會の件
 (5) 土木用材總覽昭和 12 和年度版の件

○昭和 11 年 7 月 24 日午後 5 時より中央電氣俱
 樂部に於て第 5 回役員會を開き支部長清水熙君外 10
 名出席下記事項を協議せり。

- (1) 土木用材總覽の件 (2) 9 月通俗講演會の件
 (3) 10 月見學會の件 (4) 會長來阪の件 (5) 第 5 回
 全國都市問題會議出席の件 その他

日本工學會記事

○昭和 11 年 7 月 13 日日本工業俱樂部に於て日本
 工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり次で下記
 事項を協議せられたり。

- (1) 客員推薦に關する件 (2) 定款變更に關する件

その他の記事

○昭和 11 年 7 月 9 日丹那隧道工事誌の預約募集
 パンフレットを全會員に配布せり。

○昭和 11 年 7 月 11 日歐米各國に於ける土木建
 築士法の調査を米國、英國、獨國、伊國、在日本大使へ依
 頼せり。

○昭和 11 年 7 月 30 日今秋京都に於て開催の第 5
 回全國都市問題會議へ土木學會關西支部長清水熙君出
 席することとなり、本日その參加手續をなせり。

○昭和 11 年 7 月 31 日土木學會誌第 22 卷第 8 號
 を發行し成規の手續を了し 8 月 1 日全會員に配布せ
 り。

○第 3 回工學會大會講演集を 7 月 23 日より預約
 申込者に配本を開始したり。

○昭和 11 年 8 月 6 日土木工学用語集の預約募集
 パンフレットを全會員に配布せり。

入會及転格會員

(昭 11-7-20 手続了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
-----	-------	-----	-------	-----	-------

會 員 (入 會)

三浦宇三郎君 東亜工業合資會社

准 員 (入 會)

有田政次君 滿鉄計畫部警査役附鉄道班
 井田重直君 北海道根室築港事務所
 今津哲男君 大阪鉄道局工務課保線掛
 梶原景雄君 神戸市役所水道部
 小林吉雄君 横須賀海軍建築部
 佐藤晴吉君 岡組綱代出張所
 齋藤芳衛君 滿鉄鉄道建設局計畫課
 白石 鏡君 横須賀海軍建築部
 鈴木 環君 群馬縣九十九川外三川災害復舊事務所

田澤初雄君 滿鉄鉄道建設局計畫課
 高木 勝君 高知縣廳地課
 池 明 洛君 朝鮮元山土木出張所
 張 錦 瀨君 鐵道省大臣官房研究所
 中曾根定五郎君 群馬縣九十九川三川災害復舊事務所
 野口典夫君 洞爺水電建設事務所
 橋本成一郎君 滿鉄鉄道建設局工務課
 平間政三君 臺北州土木課
 廣 島 晃君 山口縣廳土木課

藤田義光君 大阪鉄道局工務課
 馬 繼 祝君 福建省政府秘書處
 楊 尙 溥君 中華民國四川公路局
 吉本屋辨治君 横須賀海軍建築部
 李 右 雲君 鐵道省建設局工務課
 渡邊代嗣君 兵庫縣西宮土木出張所
 近藤 仁君 山形縣廳土木課
 室富正巳君

学 生 員 (入 會)

石田敏則君 日大工学部
 釜床一義君 南滿工專
 佐伯秀雄君 “
 佐藤良徳君 “
 下永田 實君 日大工学部
 倉 承 駒君 東鉄教習所
 高塚秀勝君 日大工学部

立石 進君 南滿工專
 千葉四男平君 “
 陳 伯 遜君 東鉄教習所
 霧 冲 管君 “
 野田鉄九郎君 南滿工專
 平田信和君 “
 三隅敏夫君 “

宮原正久君 南滿工專
 山賀忠夫君 “
 山下徹男君 “
 吉塚善輝君 早稻田高工
 李 尙 志君 東鉄教習所
 鈴木定雄君 日大高工

會 員 (転 格)

越智治正君 都市計畫青森地方委員会

准 員 (転 格)

梅澤健夫君 東京鉄道局工務課改良掛
 小倉安三君 東京市港灣部技術課
 鎌田千代榮君 京城府廳土木課
 姜 球 遠君 京城府廳水道課工務係
 久 實 保君 東京市水道局擴張設計畫掛

國井泰雄君 川崎市土木課下水係
 齊藤松榮多君 岩手縣立工業學校
 椎名 實君 京城府廳土木課都市計畫係
 鈴木 勇君 東京電燈會社發電計畫課
 橋本秀夫君 富山縣廳電氣局土木課

牧田市衛門君
 楊 一 甲君 滿洲大同學院
 吉村完吾君 “

土 木 学 會 會 員 數

(昭 11-7-20 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
2702	2784	526	3	20	6035

図 書 及 雜 誌

(昭和 11 年 7 月中)

交 換

水道協會雜誌 第38號 11年7月	水道協會	工業化学雜誌 第39編 第7册	工業化学會
工 政 194號 11年7月	工 政 會	資 源 第6卷 第7號	資 源 局
道路の改良 第18卷 第7號	道路改良會	建築と社會 第19輯 第7號	日本建築協會
技術日本 105號 6月號	日本技術協會	鉄 と 鋼 第22年 第6號	日本鉄鋼協會
都市問題 第23卷 第1號	東京市政調査會	電氣學會雜誌 第56卷 第7册	電 氣 学 會
會 報 第37卷 第6號	帝國鐵道協會	滿洲建築雜誌 第16卷 第7號	滿洲建築協會
機械學會誌 第30卷 第231號	機 械 学 會	日本建築士 第19卷 第1號	日本建築士會
港 灣 第14卷 第7號	港 灣 協 會	工業化学雜誌歐 文別册 第39卷 第7號	工業化学會

Memoirs	Vol. 9, No. 1-4	旅順工科大学	セメント工業	昭和11年8月號	セメント工業社
業務研究資料	第24卷第17-19號	鐵道大臣官房研究所	土木建築雜誌	第15卷第7號	シビル社
造船協會	昭和11年7月第172號	造船協會	利根	第2卷第7號	利根製作營業所
會報	第37卷第7號	帝國鐵道協會	電力民有官營案の檢討	(共1)	電氣協會
衛生工業協會誌	第10卷第7號	衛生工業協會	建設	第1卷第2號	滿洲道路研究會
土木試驗所報告	第34號昭和11年第2册	內務省土木試驗所	工学院同窓會誌	第38卷第8號	工学院同窓會誌
日本鑛業會誌	第53卷第615號	日本鑛業會誌	滿洲技術協會誌	第13卷第88號	滿洲技術協會
建築雜誌	第50輯第614號	建築學會	工学彙報	第11卷第3號	九州帝國大學部
熔接協會誌	第6卷第5號	熔接協會	軟練モルタル試驗に關する報告		日本ポルトランドセメント業技術會
寄贈			東京土木建築業組合報	第9卷第7號	東京土木建築業組合
コンクリート總覽	第2卷	コロナ社	帝國學士院紀事	第12卷第6號	帝國學士院
日立評論	第19卷第7號	日立評論社	水曜會誌	第9卷第1號	水曜會
南洋の洪水	昭和9年	朝鮮總督府	不銹鋼の熔接法		日本ニッケル時報局
建友	第36號昭和11年6月	建友會	69第議會報告書		立憲民政黨政務調査館
マツダ研究時報	第11卷第2號	東京電氣株式會社	研究抄録	第2輯昭和11年7月	服部報公會
駿工	第13卷第7號	日本大學駿工會	Excavating	Vol. 30, No. 6	三井物産機械部
日本ニッケル時報	第4卷第3號	日本ニッケル時報局	鐵道工学(土木工学大講座)	アルス	
東京工業大學々報	第5卷第7號	東京工科大学	鉄筋コンクリート設計法	アルス	
石鹼の化学		工業化学會	Cheap and healthy homes for the Middle Classes of India.		
土木工学	第5卷第7號	工業雜誌社	Residential Buildings suited to India,		
鐵道技術	第10卷第8號	鐵道技術社	V. V. Karve, R. S. Deshpande,		
東京土木建築業組合報	第9卷第6號	東京土木建築業組合	購入		
日本工学輯報	昭和11年第14卷	學術研究會	Der Bauingenieur, 17 Jahrgang, Heft 25-28, Juli 1936.		
區劃整理	第2卷第7號	土地區劃整理所	Beton und Eisen, 35 Jahrgang, Heft 12-13, Juli 1936.		
工業現勢	第5卷第7號	東京工業大學工業調査部	Die Bautechnik, 14 Jahrgang, Heft. 26-30 Juli 1936,		
名古屋工業會報	昭和11年7月號	名古屋工業會	Engineering News-Record. July, 1936. vol. 116 No. 24-26. vol. 117, No. 1-2.		
セメント界彙報	7月號第340號	日本ポルトランドセメント同業會	Le Génie Civil, Tome CIX, No. 1-2, Juillet 1936.		
工事畫報	第12卷第7號	工事畫報社	A Magyar Mernok, es Epitesz Egylet Kozlonye LXX, Kotet 21-26.		
無線資料	第1卷第4號	東京電氣無線株式會社			
鑄物	第8卷第7號	日本鑄物協會			
工学	昭和11年7月263號	東京工学社			
國立公園	第8卷第7號	國立公園協會			
相馬標準砂にて	第23號の9	日本ポルトランドセメント業技術會			
會務彙報	第55號	日本土木建築諸會聯合會			

會員 曾山親民君 昭和11年7月29日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり。

會員 田畑淳一君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 吉開朋夫君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

會 告

會 員 名 簿 調 製 に 就 て

昭和11年度本會會員名簿を作成するに當りまして正確を期するため登録名簿と一応照合致したいと思ひますから、別紙葉書に所定の事項を漏れなく御記入の上來る9月30日までに本會に到達する様御回報を願ひます。

從來住所職業その他が變更せられても一向御通知がないため舊來のまま名簿を作成し、實際と相違することが住々ありますのは誠に遺憾に存じます、何卒従前の通り何等變更せられない場合でも、必ず御回報下さる様特に御願ひ致します。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員

荒川 參太郎君	稻 葉 彌 吉君	木 村 實 一 郎君	小 林 源 次君
轟 増 能君	張 惟 和君	陳 發 棟君	丸 林 筑 郎君
安 西 榮 太 郎君	山 本 保 之 助君		

准 員

和 泉 高 殿君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	柿 崎 景 久君
田 中 武 次君	坪 井 基 君	緒 方 政 雄君	大 森 鶴 吉君
佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	萩 原 官 六君	菊 池 三 吉君
栗 田 忠 治君	小 林 義 雄君	田 所 要 吉君	野 口 金 太君
萬 斯 選君	關 佳 夫君	曾 我 進君	田 代 岩 平君
福 島 保君	船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君	武 田 惣 一 郎君
本 橋 二 郎君	矢 野 鷹 雄君	吉 見 胤 陸君	中 野 順 太 郎君
難 波 壽 一君	丹 羽 賢 家君	吉 田 二 億君	袁 汝 誠君
劉 作 攢君	濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君	藤 村 禮 士君
城 内 清 太君	水 原 譽 文君	宮 田 肇君	片 岡 幡君
山 田 政 次 郎君	横 田 清 治君	石 原 三 郎君	齋 藤 賢 策君
多 田 安 三 郎君			

工 事 寫 眞 募 集

工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。登載の分には薄謝を呈します。

會 告

昭和 9 年關西地方風水害調査報告豫約募集

昭和 9 年 9 月 21 日關西地方に襲來した大颱風は同地方一帯に我國未曾有の被害を與へたので本會に於ては關西地方風水害調査委員會を設立し、同年 10 月より鋭意調査を進めて來たが、本年 5 月調査を完了したので、目下之を編纂し昭和 9 年關西地方風水害調査報告として發行準備中であります。本報告は氣象、被害概況。河川、運河、灌漑、砂防、灣港、海岸。道路、道路橋。鉄道、軌道、鉄道橋。電氣工作物。土地、建築物。上下水道の 8 部門に分れ、各部門に就き被害狀況、被害原因、被害對策を記述したもので、現今防災工学の必要が各方面から叫ばれてゐる時、土木工事に携る技術者は勿論一般技術者の必携の書であると信ずる。

本會々員には印刷實費 1 円 50 錢にて御領致致しますから、この好機を逸せられず御申込下さい。

内 容： 四六倍判 200 餘頁

申込期日： 昭和 11 年 9 月 15 日

代 價： 1 円 50 錢 外に送料東京市内 6 錢、内地 14 錢、臺灣、樺太 34 錢、朝鮮、滿洲、南洋 49 錢

配 本： 昭和 11 年 10 月上旬

備 考： 本書は豫約申込數に依り印刷するものですから従つて豫約期日後の申込に對しては遺憾ながら領布に応じ兼ねる場合があります。

會員の頁新設に就て

今度會誌に「會員の頁」を新設する事と致しました。この欄は會員諸君の土木工學界、土木工事、土木學會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

丹那隧道工事誌領布に就て

先般丹那隧道工事誌の豫約を募集致したところ申込應募數 1,000 部以上に達する盛況を見るに至りましたことは欣幸に堪へません、従て代價は 1 部 3 円 50 錢で領布することに致したから御諒承を願ます。配本は 10 月末日の豫定であります。

會 告

旅順工科大学内に土木工学科を設置せられんことを昭和 10 年 7 月 31 日建議したるに、応用化学科は既に議會の協賛を経て設置するに決定したるも土木工学科は未だ其の實現を見るに至らざるを遺憾とし下記の如く重ねて建議を爲し併せて旅順工科大学長並に同商議員に對し建議書寫を添へ越旨達成の爲め盡力賜り度旨文書を以て依頼したり。

建 議

關東局旅順工科大学内に土木工学科を速かに設置せられむことを望む

理 由

新興滿洲國の産業文化の發展に對し、鉄道、道路、河川、港灣、都市計畫、上下水道等の土木事業が其の先驅たることは茲に縷述を要せざる處にして、之が有效適切なる施設運営一に堪能なる技術と卓越せる工学との力に俟たざ可らざるや論なし。而して滿洲國に於て之が供給を確立する方策固より一にして足らずと雖も、最も效果多くして而も實現容易なる捷徑は、既存の旅順工科大学内に土木工学科を設置して、廣く土木技術の教育と土木工学の研鑽に努むるに如くものなかるべし、本大学設立の趣旨は一に滿洲國の産業發展に資せんとする點に在りと信するも、本学内に如上の目的達成上の基礎たるべき、土木工学科の設置なきは甚だ遺憾とする所にして、速かに之が實現を期することは刻下の急務なりと信す。

右は茲に昭和 10 年 7 月 31 日建議したるに、応用化学科は既に議會の協賛を経て設置するに決定したるも土木工学科は未だ其の實現を見るに至らざるは甚だ遺憾なり、本會は役員會の議を経て茲に重ねて及建議候也

昭和 11 年 8 月 6 日

社団法人土木學會

會 長 井 上 秀 二

建 議 書 提 出 先

內閣總理大臣	廣 田 弘 毅 閣下
內閣調査局長官	吉 田 茂 閣下
拓務大臣	永 田 秀 次 郎 閣下
文部大臣	平 生 夙 三 郎 閣下
大藏大臣	馬 場 錠 一 閣下
關東局總長	武 部 六 藏 閣下
對滿事務局總裁	寺 内 壽 一 閣下

會 告

図書室及び娯楽室御利用に就て

本會所有の図書及び雑誌は本會図書室に備付けてありますが、下記時間内御隨意に御閲覧下さい。尙娯楽室には碁、将棋盤を備付けてありますが御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月31日 自午前9時至午後8時、自7月21日
自1月1日至7月20日 自午前9時至午後8時、自8月31日、及土曜日自午前9時至午後4時

但し、旧暦日及び祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました。又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず本會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられな方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法、径 14mm
2. 品種、銀地金文字浮出し
3. 種類、詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 費費、金 50 錢（郵送の場合は外に書留郵便料、1 個に付金 13 錢を要す）



會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付につき注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 450 円	金 450 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3月 第 2 期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい。）

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるる會員は納期の翌月末迄自
者その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたい。

未納の場合 集金郵便に對し放なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費
滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せら
れます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。
發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 健 雄	板 倉 誠	稻 葉 通 彦	大 久 保 一 郎
	岡 崎 三 吉	加 藤 伴 平	櫻 部 保	嶋 野 貞 三
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 忠	廣 瀬 孝 六 郎

既刊會誌殘部内譯

(●は残部有るものを示す)

號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(円)
5	●												1.00
6	●												1.00
7	●												1.50
8	●												2.00
9	●												2.00
10	●												2.00
11	●												2.00
12	●												2.00
13	●												2.00
14	●												2.00
15	●												1.00
16	●												1.00
17	●												1.00
18	●												1.00
19	●												1.00
20	●												1.00
21	●												1.00
22	●												1.00
第20巻第12號(創立20周年記念號)													1.50
第21巻第7號(會誌索引付)													1.30
調査報告書(1,2,3)													18.00
応用力学聯合大會講演集													1.00
鉄筋コンクリート標準示方書													0.50
同上(上)解													1.00
土木工学論文抄録													3.50
土木学会誌索引(第1巻第1號—第20巻第12號)													60.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に 加込用紙通信欄にその旨の旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1回1頁 35円	1回半頁 20円
指定廣告	裏表紙3面對 向及廣告初頁	1回1頁 40円
	裏表紙3面	1回1頁 70円
	色アース	1回1頁 60円

- 指定廣告は凡て1箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII, NO. 9, SEPTEMBER 1936.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.....	71
Papers.	
Some Considerations about Method of Aeration for Activated Sludge Process. <i>By Tokusaburo, Ikeda, Dr. Eng., Member.</i>	839
On the Principle of Bélanger. <i>By Masasi Homma, C.E., Member.</i>	851
On a Method of the Investigation of the Ground Layers relating their Bearing Powers. <i>By Keiziro Nisio M.E., Member.</i>	859
Discussions.	875
Notes on Matters of Interest.	883
Current Notes	913
Abstracts of Selected Articles.	921
Patent News.	947
New Publications.	949

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.